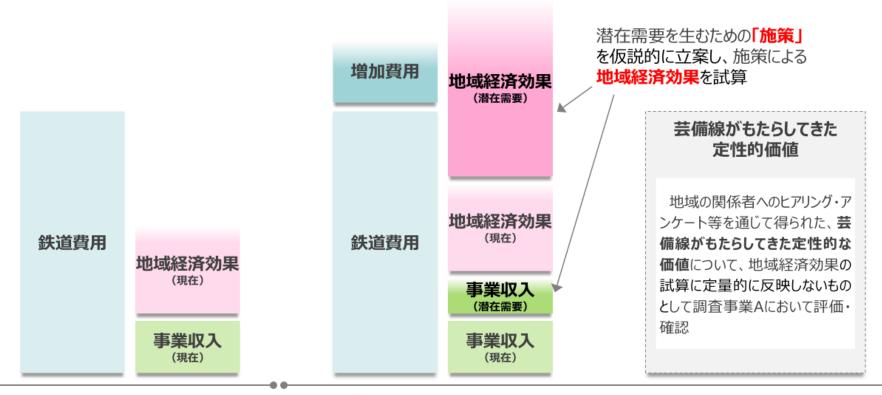
- ○**調査事業 A** において、芸備線の多様な価値の創出や鉄道の潜在需要増加につながる<u>「施策」を</u> 仮説的に立案し、「施策」による地域経済効果を試算
- ○実証事業 A において、仮説を実証するため、「施策」を試行的に実施し、効果を測定



現在

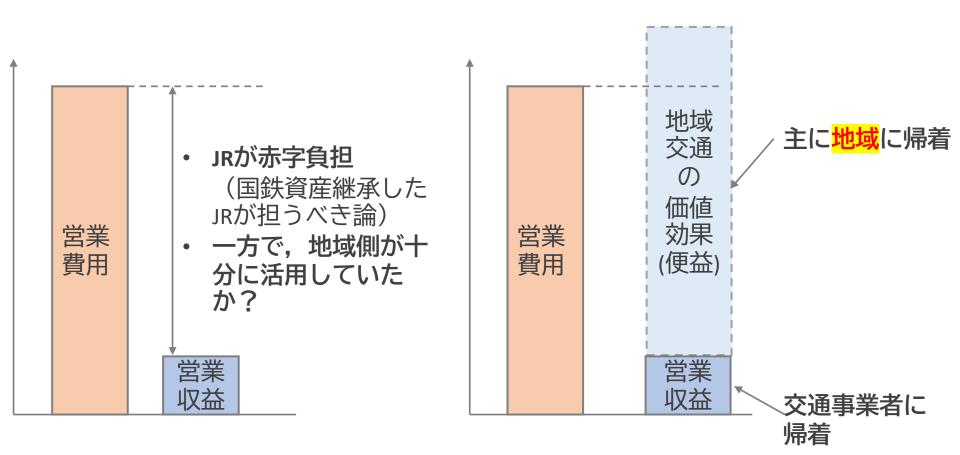
フェーズA (可能性追求) における検討

※ただし、費用を収入・経済効果が上回る/下回るいずれの場合にあっても、フェーズAの検討のみをもって最適な交通モードの判断は行わない

出典:R7.3.26 第3回協議会事務局説明資料

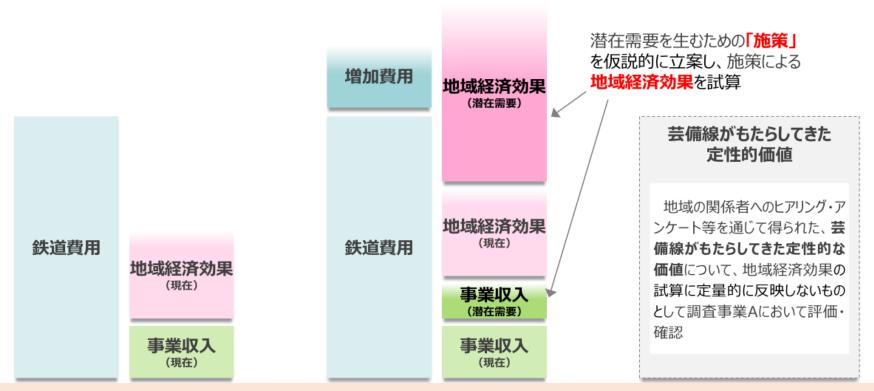
議論の視点

▼現在のローカル線の議論 (世論含む) ▼交通インフラの意義に基づく議論



・ 従来からの運営スキームは,どこまで地域経済効果が引き出せてきたか?

- ○**調査事業 A** において、芸備線の多様な価値の創出や鉄道の潜在需要増加につながる<u>「施策」を</u> 仮説的に立案し、<u>「施策」による地域経済効果を試算</u>
- ○実証事業 A において、仮説を実証するため、「施策」を試行的に実施し、効果を測定



- 現在の鉄道事業スキーム:JRが運行、その移動に付随するもの
- ・ 「価値を最大限追求」:価値の種類、価値の高め方、引き出し方、 マネジメント体制..etc
- ・ →沿線"地域"にとって,どのように持続可能に引き出して,そもそもどの ようなまちづくりを目指すのか?の議論が前提として必要